

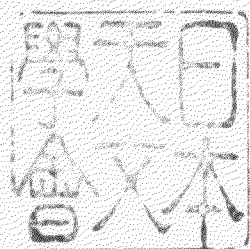
天文月報第二十三卷第十二號附錄 昭和五年十二月一日發行

自昭和五年一月  
至昭和五年十二月

(西紀一九三〇年)

# 天文月報

第二十三卷



日本天文學會

外  
35

# 天文月報 第二十三卷 總目次

## 雜 錄

### 論 說

基線測量の精度に就いて

理學士 川畑 幸夫

一 號  
一頁

寫眞乾板上の星の位置を簡單に測る方法

理學士 窪川 一雄

一 五

太陽縁邊附近に於ける太陽面の曲率效果

理學士 野附 誠夫

二 二一

天體高度の計算に就いて

理學士 秋吉 利雄

二 二六

天文觀測に微弱電流の應用に就いて(一)

理學士 橋元 昌矣

三 四一

天文觀測に微弱電流の應用に就いて(二)

理學士 橋元 昌矣

四 六一

月の子午線觀測に關する誤差の週期的變化

水野 良平

四 六七

天文觀測に微弱電流の應用に就いて(三)

理學士 橋元 昌矣

五 八一

カルシウム雲に就いて(一)

理學士 蓮沼 左千男

六 一〇一

ケフェウス種變光星に關する統計的研究

理學士 神田 清

六 一〇四

海王星外の新惑星に就いて(一)

理學士 神田 茂

七 一二一

カルシウム雲に就いて(二)

理學士 蓮沼 左千男

七 一二四

海王星外の新惑星に就いて(二)

理學士 神田 茂

八 一四一

天體觀測と氣象(一)

理學博士 關口 鯉吉

八 一四五

天體觀測と氣象(二)

理學博士 關口 鯉吉

九 一六一

天文學とは

理學士 秋山 薫

十一 一八一

惑星狀星雲(一)

理學士 窪川 一雄

十一 一八四

瀬戸内海の潮汐に就て

理學博士 小倉 伸吉

十一 二〇一

小惑星エロスと其光度變化

理學士 神田 茂

十一 二〇五

惑星狀星雲(二)

理學士 窪川 一雄

十一 二〇九

星雲の彼方(一)

理學博士 萩原 雄祐

十二 二二一

エロスに期待されるべき事ども

水野 良平

十二 二二五

大赤道儀の据付け工事を終へて

理學士 橋元 昌矣

一 九

マイケルソン・モーレーの實驗に關する會議

一 一三

歐米旅行偶感

理學博士 萩原 雄祐

二 三三

一九二六年萬國經度觀測の報告

學位論文審査要旨

三 四七

一九三一年の英國航海天文曆

學位論文審査要旨

三 四九

學位論文審査要旨

アインシュタイン塔の建築工事に就いて

四 七三

帝大營繕課 長尾 清一

流星天文學と天體の進化

右京 太夫の見た星に就いて

五 八七

小川 清彦

第四十四回定會記事

昭和四年(第二十二年度)事務報告

六 一一一

及び會計報告

小倉、及川兩會員の帝國學士院よりの受賞

六 一一三

「右京太夫の見た星に就いて」について

大崎 正次

七 一二九

露西亞に於ける天文學の現狀(一)

理學士 中野 三郎

七 一三一

月の生成に由つて生じた地殼の變動

ウィリアム・ボウイー

八 一四九

露西亞に於ける天文學の現状(二)	理學士 中野 三郎	八	一五〇	火星の衛星	一	一六	新變光星の命名	四	七五
露西亞に於ける天文學の現状(三)	理學士 中野 三郎	九	一六五	世界最大の隕石乎(グロートフォン タイン隕石)	一	二六	彗星だより	四	七五
占星術の天文學發達に及ぼせる影 響(一)	アントン・パネコック	九	一六九	昭和五年各種曆の對照表に就いて	一	一六	海王星外の新惑星の發見	四	七六
占星術の天文學發達に及ぼせる影 響(二)	アントン・パネコック	九	一七一	無線報時修正値	一	二七	天文學談話會記事	四	七七
小惑星エロス	アントン・パネコック	十	一八八	無線報時修正値	一	一八	無線報時修正値	五	七七
月面に見られる諸形態の起因に就 て(一)	エー・シー・ギッフオード	十	一九二	矮星の運動に就いて	二	三六	無線報時修正値	五	九二
月面に見られる諸形態の起因に就 て(二)	エー・シー・ギッフオード	十	一九四	ケフェウス型變光星の週期と變光 曲線の形との關係	二	三七	新星の起因とその將來	五	九三
新星内の物理的状況	故S・R・バイク	十一	二一一	彗星だより	二	三七	星座の新劃定	五	九三
偉大なるケプレルの業績	R・J・トラムプラー	十一	二一一	會員消息	二	三八	ローウェル天文臺發見の新惑星	五	九四
銀河系内に於ける光の吸収(一)	R・J・トラムプラー	十一	二一一	會員の計	二	三八	海王星外の惑星の發見報告	五	九四
銀河系内に於ける光の吸収(二)	R・J・トラムプラー	十一	二一一	無線報時修正値	二	三八	流星の寫眞を撮る試み	五	九五
理學博士 平 山 清 次	十二	二三一	日食の接觸時刻を分光器的に觀測 する考察	二	三八	若い星の分光度測定による溫度	五	九五	
銀河系内に於ける光の吸収	R・J・トラムプラー	十二	二三三	ケフェウス型變光星の週期と色度 曲線との關係	三	五〇	食變光星の分光器的觀測に赤色光 線を用ふる案	五	九五
第四十五回定會記事	R・J・トラムプラー	十二	二三三	コロナと黒點週期との關係	三	五一	彗星だより	五	九五
長週期變光星の光度の長年變化に 就いて	R・J・トラムプラー	十二	二三五	空間に於ける光の吸収	三	五一	二百吋反射鏡の製作	五	九六
雜 報				大質量の星	三	五二	火星に水及び酸素の存在すること の分光器的證明	五	九六
				新小惑星	三	五三	子午線の年週變位	五	九七
				木星の表面の變化	三	五三	星の赤經が赤緯によつて系統的に 異なる事	五	九七
				天文學談話會記事	三	五四	天文學關係者の懇親會	五	九七
				無線報時修正値	三	五四	天文學談話會記事	五	九七
				太陽スペクトル中の水素バルマー 線列	三	五五	無線報時修正値	五	九七
					四	七五	無線報時修正値	六	九八
							ガツチンゲンの緯度	六	一一四
							三角視差の系統的修正及び公算誤		

差	六	一一五	國際天文電報について	八	一五七	太陽黒點と地震との統計	十一	二一六
惑星狀星雲の運動及び成因	六	一一五	新著紹介	八	一五七	彗星だより	十一	二一六
惑星出入一覽圖	六	一一六	無線報時修正値	八	一五七	惑星と太陽黒點週期	十一	二一六
彗星だより	六	一一六	散開星團の統計的研究	九	一七三	ターナー教授の訃	十一	二一七
無線報時修正値	六	一一七	シリウスの伴星について	九	一七三	布哇に於ける天文臺	十一	二一七
干渉計を用ひて太陽の自轉速度を測定する試み	七	一三五	ツィンゲル氏法に依り時の觀測を行ふ場合の天文曆	九	一七四	無線報時修正値	十一	二一七
玉溪隕石	七	一三五	彗星だより	九	一七四	白色矮星と考へられる星	十二	二三五
シュワスマン・ワハマン彗星	七	一三六	一九二九年の黒點數及びその他	九	一七五	惑星出入一覽圖	十二	二三六
彗星だより	七	一三六	光行差常數とスペクトル型との關係	九	一七五	北極星系	十二	二三七
週極星の赤緯より決めた光行差常數	七	一三七	月の輻射と溫度	九	一七六	カウエル氏の引退	十二	二三七
〇型星の視線運動	七	一三七	十月八日の月食分食	九	一七六	天文學談話會記事	十二	二三七
太陽コロナの週期的變化	七	一三七	無線報時修正値	九	一七七	無線報時修正値	十二	二三七
球狀星團M二十二中の巨星に對する質量スペクトル關係	七	一三八	カルシウム雲の運動とその分布	九	一七七	十月に於ける太陽黒點概況	十一	一九
日本學術協會主催帝國學士院自然科學受賞者講演會	七	一三八	木星の色の週期的變化	十一	一九六	十一月に於ける太陽黒點概況	二	三九
無線報時修正値	七	一三八	太陽中の元素	十一	一九六	流星の觀測	三	五五
ウォルフライエ星の構成に就て	七	一五三	小惑星と彗星との關係	十一	一九七	太陽のウォルフ黒點數	三	五八
球狀星團と非銀河系星雲との間に關係があらうか	八	一五四	天文學談話會記事	十一	一九七	十二月に於ける太陽黒點概況	三	五九
ローウェル新天體の推算に關する批評	八	一五五	無線報時修正値	十一	一九八	流星の觀測	四	七八
太陽黒點曲線の豫報	八	一五六	日本天文學會要報第一號に就て	十一	一九八	一月に於ける太陽黒點概況	四	七八
玉溪隕石	八	一五六	恒星の構造とそのエネルギーの源泉	十一	一九八	二月に於ける太陽黒點概況	五	九九
太陽面に於ける光波長の緣效果	八	一五六	オリオン星雲のスペクトル	十一	二二五	太陽のウォルフ黒點數	六	一一八
			アメリカ大陸移動	十一	二二五	三月に於ける太陽黒點概況	六	一一九
			地球赤道の橢圓率に就いて	十一	二二六	四月に於ける太陽黒點概況	七	一三九
						流星の觀測	七	一三九
						五月に於ける太陽黒點概況	八	一五九

觀測

六月に於ける太陽黒點概況	九	二七八
太陽のウオルフ黒點數	九	一七九
七月に於ける太陽黒點概況	十	一九九
八月に於ける太陽黒點概況	十一	二一八
九月に於ける太陽黒點概況	十二	二三九

天象

各月の主なる天象

流星群

變光星

東京(三鷹)で見える星の掩蔽

號	頁	號	頁	號	頁
一	一九	二	三九	三	五九
四	七九	五	九九	六	一一九
七	一三九	八	一五九	九	一七九
十一	一九九	十二	二一九	十三	二三九

座及び惑星だより

附録

號	頁	號	頁	號	頁
一	二〇	二	四〇	三	六〇
四	八〇	五	一〇〇	六	一二〇
七	一四〇	八	一六〇	九	一八〇
十二	二〇〇	十三	二二〇	十四	二四〇

變光星の觀測(一)  
 射手座 B. D. — 20° 5280 の變光に就て  
 小惑星の光度觀測

一頁  
 四  
 四

變光星の觀測(二)	五
一九二九年變光星の極大、極小の觀測	九
變光星の觀測(三)	〇
變光星の觀測(四)	一五
アルゴル種變光星の觀測	一八
變光星の觀測(五)	一九
變光星馭者座 424.1928 の週期に就て	二二
變光星の觀測(六)	二三
累年變光星觀測發表數	二七
一九三〇年觀測者別觀測數	二七
一九三〇年變光星觀測發表數	二七
一九三〇年變光星別觀測發表數	二七
小惑星の光度觀測	二八